

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2793200128		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家佐太中町		
所在地	大阪府守口市佐太中町7丁目10-20		
自己評価作成日	令和5年3月8日	評価結果市町村受理日	令和5年6月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/">http://www.kaigokensaku.jp/28/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和5年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭的な生活ができ、自分らしく楽しく生きる。  
 ・今出来ていることの維持ができるように、生活リハビリを中心に一日3回のモップかけや洗濯干・取り込み・たたみを行っています。  
 ・炊事は包丁やはさみを使用したり盛り付けをされたりと、それぞれ個々の状態に合わせて共に行っています。  
 ・月2回第1火曜日に行う、カラコロ体操教室を実施しています。  
 ・コロナ感染症予防の為、外出が不可だったが、少しずつ緩和され近くの神社などに天気の良い日は散歩に行き下肢筋力低下を防ぐと共に、気分転換を図る機会を増やしています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑豊かな佐太天神宮と隣接し、森の空気が感じられる静かな住宅地に立地し、自治会の協力が得やすい環境である。利用者と一緒に制作した季節の装飾を飾り、プランターで季節の花を育て、水槽でメダカを飼育する等、生活の中で自然や季節感が感じられる家庭的な環境づくりに努めている。調理・掃除・洗濯等の家事参加と午前中の体操を日課とし、午後は職員がレクリエーションを企画し、月2回「カラコロ体操教室」を行う等、日常生活の中で楽しみや役割を感じながら、心身機能の維持向上に取り組んでいる。手作り調理を継続し、季節料理・行事食・手作りおやつ・デリバリー等、食事が楽しめる機会作りを行っている。毎月のフロア会議・全職員が受講できるオンライン研修・人事考課制度等で職員の資質向上と連携に努めている。医療連携体制を整備し、希望に応じて看取り介護にも対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己評価	外部評価部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は相談室に掲示し、玄関にも置き観覧できるようにしています。	会社の「経営理念」・施設理念を相談室に掲示し、朝の申し送りで読み上げ周知を図っている。期毎のビジョンを相談室・玄関に掲示し、共有を図っている。期末に職員各自がビジョンの実践状況の振り返りと次期ビジョンについての意見を記入して提出している。それらをもとに期末のフロア会議で実践状況を振り返り、管理者・主任が集約して次期ビジョンに反映し、理念・ビジョンの実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会での夏祭りや秋祭り・盆踊りなど参加していたが、現在コロナ感染予防対策のため中止している。	コロナ禍のため、通常地域への外出や地域交流は休止しているが、時期を勘案しながら利用者と散歩に出かけたり、事業所の買い物に職員が地域の商店を利用する等、地域とのつながりを継続できるよう取り組んでいる。また、自治会に加入しており、回覧板による地域の情報収集、自治会への特別寄付、佐太天神の清掃活動への参加等、自治会や自治会長との関係作りにも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や買い物で外出をすることにより、認知症に対する理解を深めています。		

グループホームたのしい家佐太中町

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在運営推進会議も書面開催となっておりますが、ご家族様・地域の方には書面にてご報告しています。	令和4年度は、5月・7月・9月は、利用者・家族・地域包括支援センター職員・事業所職員を構成委員とし、11月からは、地域代表(連合町会長)、知見者(他事業所職員)も加え、構成委員を充足している。コロナ禍のため令和4年度も職員のみで2ヶ月に1回開催している。報告書(運営状況、入居者状況、研修、人員体制、事故ヒヤリハット、行事その他の活動、今後の取り組みについて報告)・「ご意見シート」・「佐太中便り」を構成委員に郵送している。返信された意見を記入して「運営推進会議議事録」を作成し、議事録を「くすのき広域連合」に提出している。議事録ファイルを玄関に設置し、公開している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	くすのき広域連合・市役所介護高齢課に相談している。	運営推進会議を通して、地域包括支援センター・くすのき広域連合と連携している。市の福祉課と協働し、福祉的支援が必要な利用者を支援している。質問・相談等があれば、市役所の介護高齢課に訪問、または電話で問い合わせを行い、回答や助言を運営や利用者支援に反映している。市内のグループホーム連絡会・ケアマネ連絡会の開催があれば参加し、連携を図っている。	

グループホームたのしい家佐太中町

評価項目	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年の研修では、必須項目のため、受講し周知しています。	「身体拘束適正化に向けた指針」を作成し、身体拘束をしないケアを実践している。フロア会議で毎月、身体拘束適正化についての検討(センサーマット及び人感センサー使用の適正について検討)を行い、2ヶ月に1回(運営推進会議と同日に)身体拘束適正化委員会を開催している。委員会では、拘束事例なしの確認と、各フロア会議の内容をもとに、センサーマット及び人感センサー使用の適正化について検討している。パソコン・タブレット内で議事録の閲覧を行い、周知状況を確認できる仕組みがある。法人の年間研修計画に沿ったオンライン研修で、年に2回「人権及び虐待・身体拘束防止研修」を実施し、報告書の提出により受講を確認している。フロア・玄関は施錠してるが、外出したい意向があれば、職員が対応して玄関前・近隣散歩・屋上に出かけ、閉塞感がないように支援している。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年の研修では、必須項目のため、受講し周知しています。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を理解し外部研修などの参加の促し、全職員が周知できるようにしたいと思います。実際に成年後見人制度をされている方もおられます。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、ゆっくりと説明を行い、質問や疑問があれば、いつでも説明をしています。		

グループホームたのしい家佐太中町

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し意見をいただけるようにしています。また運営推進会議でもご意見頂戴しています。	面会・来訪時・電話連絡時に近況報告を行い、家族の意見や要望を聴取するようにしている。毎月、フロアの行事や利用者個々のADLを記載した「日々の便り」と写真を多く掲載した「佐太中だより」を郵送し、また、2ヶ月に1回、「ご意見シート」を同封して運営推進会議の報告書を郵送し、家族が意見・要望を表しやすいように努めている。玄関には意見箱も設置している。年1回法人が家族満足度調査を実施し、調査結果をサービス・運営等に反映できるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の施設会議で意見を聞いています。	フロア会議を毎月開催し、職員の意見・提案を利用者のケアや業務に反映できるよう取り組んでいる。日々の検討事項については、各フロアで検討した内容を申し送りノートで共有し、経過も共有しながら実践につなげている。管理者が、定期的には年1回段位評価の面談を行い、随時にも面談し、職員の意見・提案を個別に聞く機会を設けている。年1回の法人による従業員満足度調査でも、職員の意見等の把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社による年に1回の従業員満足度調査やキャリア段位制度により、働きやすい職場にしています。		

グループホームたのしい家佐太中町

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員体制や勤務体制によるが、研修参加に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は2ヶ月に一度、同市内グループホーム連絡会などの参加を、今後は職員を含め事業所交流を図っていきたいと思います。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の施設見学などをして頂き、不安や要望を伺い、安心して入所していただけるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前や開始後、ご家族様に日常生活の報告をし、関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接でしっかりと話を伺い、ご本人様のニーズに応じたサービスが必要かを心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様同士の関係を大切に、炊事や洗濯・掃除を生活リハビリとして共に行い関係づくりに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との連絡を密にし、ご本人様本位の支援ができるように、一緒に考えていくようにしています。		

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で面会不可の状態の時はリ モート面会を行い、現時点では面会が可能 になり居室にてゆっくり過ごしていただき関 係性が途切れないように努めています。	家族との面会、家族の了承のもとでの友人・ 知人との面会により、馴染みの人との関係継 続を支援している。馴染みの人との電話の取 次ぎや、はがき・手紙のやり取りも支援して いる。家族同行での近隣への散歩や自宅への 一時帰宅は支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	ご利用者様同士の関わりに配慮し、孤立せ ずに自然なかかわりができるように支援に 努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の際、何かお困りの事があれば連絡 下さいと伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	ご利用者様の意向を、くみ取りながら本人 らしい生活ができるように、常に話し合い実 践しています。	利用者の思いや暮らし方の希望等につい て、入居時に把握した情報があれば「フェイ スシート」に記録し、支援や介護計画に反映 できるよう取り組んでいる。入居後の会話等 で把握した情報は、朝夕の申し送りや申し送 りノートで共有するように努めている。把握が 困難な場合は、日々の関わり中で表情や行 動等を観察したり、声かけを行いながら本人 の立場に立って考えたり、家族の意見を参考 にする等し把握に努めている。	「フェイスシート」に追記する等、入居 後に把握した情報を追記し、人物像に ついての情報共有や個別支援に活用 できる書式を工夫されることを期待し ます。

グループホームたのしい家佐太中町

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様やご家族様との会話の中から生活歴を伺い、職員に情報共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を観察し、記録や連絡ノート申し送りを活用し、把握できるように周知しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書を作成するにあたって、毎月の会議にて意見を出し合い確認をとり作成しています。	「フェイスシート」「アセスメントシート」「ケアチェック表」をもとに、初回の介護計画を作成している。サービスの実施状況や利用者の様子等は、タブレットのケア記録に記録している。毎月のフロア会議の中で利用者の状況を確認し、必要時は随時、定期的には6ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。フロア会議での話し合いの中で、介護計画の理解と周知を図っている。見直しの際は、「評価表」でモニタリング・評価を行い、「ケアチェック表」で再アセスメントを行い、サービス担当者会議を開催している。	PDCAサイクルにもとづいたケアマネジメントが明確になるファイリングの工夫が望まれます。今後も、介護計画にもとづいたケア記録の標準化に向け取り組むことを期待します。サービス担当者会議の議事録に、利用者・家族の希望、主治医・看護師等関係者の意見も記載してはどうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご入居者様それぞれのケア記録に残し、申し送りなどで情報を共有し意見交換をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様及びご家族様からのニーズに柔軟な対応をしています。		



グループホームたのしい家佐太中町

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域内にある神社には、花や池があり、行く機会を増やしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月第2木曜日訪問診療により、支援しています。	契約時に確認し、利用者・家族の希望に沿った受診を支援している。協力医療機関による月2回の訪問診療、週1回の訪問看護、希望に応じて歯科往診を受けられる体制がある。訪問看護師は、健康管理と主治医との連携を行い、24時間の連絡体制があり、訪問時の記録は「バイタルチェック表」に記録している。通院については、家族が同行している。訪問診療・通院については、「介護記録」「支援経過記録」に記録している。内容に応じて、朝夕の申し送りや申し送りノートで、職員間の情報共有を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週月曜日訪問看護にて支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院関係者と情報交換を行い関係づくりを密にしています。		

グループホームたのしい家佐太中町

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約でご家族様には施設の方針として看取り介護を行っていることを説明しています。	契約時に、重要事項説明書内の「重度化対応・終末期ケア対応に係る指針」を説明し、同意を得ている。また「急変時・終末期における医療等に関する意向確認書」で、意向を確認している。重度化を迎えた段階で主治医から説明を受け、事業所からも説明し、家族の意向を確認している。家族に看取り介護の希望があれば、「看取り介護の同意書」、看取りに向けた「介護計画」に同意を得て、主治医・法人看護師・訪問看護師・薬局等とチームで支援に取り組んでいる。経過については、介護記録と支援経過記録に記録している。「看取り研修」も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変時の対応には、落ち着いた対応ができるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。	年2回避難訓練を行っている。令和4年度は、6月に昼間想定火災通報、避難誘導訓練と水害想定での避難誘導訓練を実施し、11月に夜間想定総合訓練を実施している。訓練に消防の立ち合いがあり、助言を受けている。訓練後は消防訓練実施報告書を作成し、参加できなかった職員には口頭で伝達している。また、計画書・報告書は、パソコン・タブレット内で全員が閲覧することとし、周知が確認できる仕組みがある。自治会長等、近隣から協力を得やすい環境である。備蓄は法人が支給・管理し、3階屋上に備蓄している。	

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束・虐待防止研修を行っていると共に会議などで話し合い、尊重や尊厳を損ねない言葉使いができるように気をつけています。	「接遇マナー研修」「認知症ケア」「人権及び虐待・身体拘束防止」等の研修の中で、人格尊重、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について学ぶ機会を設けている。気になる言葉かけや対応があれば、管理者が個別に注意喚起や助言を行っている。個人記録類はスタッフルームの施錠できる書庫に保管し、写真・映像の使用については契約時に文書で意向を確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用様それぞれの状態に合わせて自己決定をしていただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様本位で物事を考えるようにし、レクレーションなどの工夫を行い、ご利用者様らしい生活ができるように取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々でお好きな洋服や装飾品などを、身に付けられています。また、ご家族様にもご相談しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け・食器洗いを職員と共にしています。	委託業者から献立と食材が届き、各フロアで調理した食事を提供している。利用者個々の状況に応じて、食事形態に個別に対応している。調理・盛り付け・食器洗い等を職員と一緒に、役割づくりを支援している。献立には季節感や行事食が配慮されており、おやつレクリエーションで手作りおやつのもちも設け、食事が楽しめるよう努めている。デリバリー等を活用し、変化が楽しめるよう工夫している。	

グループホームたのしい家佐太中町

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量の接種をもとに、摂取していただき少ない方には、声かけ行うなどしています。食事に関しては、食材会社からの管理栄養士のメニューをもとに調理をし摂取していただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全入居者様の口腔ケアを行い、職員が付き添い確認しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来ていることは継続できるようにサイクルや行動を把握しトイレ誘導を行っています。	タブレット内の排泄記録で、利用者個々の排泄状況や排泄パターンの把握に努めている。ベッド上での排泄介助もあるが、状況に応じて2人介助でも対応し、可能な限り昼間はトイレでの排泄が継続できるよう支援している。夜間は安眠にも配慮し、利用者個々の状況に応じた介助を行っている。検討事項があれば、朝夕の申し送りや業務内で検討し、申し送りノートで経過を共有しながら、速やかに対応できるよう取り組んでいる。トイレや居室のドア、周囲に配慮した声かけ等、プライバシーへの配慮について周知を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確保に努め、一人一人の排泄の状況に応じて、医療機関と連携を図り、下剤でコントロールすると共に体を動かす予防に心がけています。		

グループホームたのしい家佐太中町

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本はありますが、個々の希望に合わせて対応できるようにしています。	個浴の一般浴槽で、一人ずつ浴槽の湯を入れ替え、ゆっくり入浴できるよう支援している。週2回午前入浴を基本としているが、体調・気分・タイミングに応じて日時の変更等を行い柔軟に対応している。入浴状況はタブレット内の入浴記録で確認している。浴槽のまたぎが困難な場合はシャワー浴で、同性介助を希望される場合は同性介助で、入浴拒否が続く場合は声かけの工夫・職員の交代など、個別の配慮で対応している。ゆず湯・しょうぶ湯・入浴剤で入浴がより楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室や寝具は清潔が保てるように環境整備を行い、気持ちよく休めるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関との連携を図り、往診日には薬剤師も来られ薬の状況確認し、変更などの場合全職員に申し送り周知しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリを中心に、役割をもった生活ができるように、洗濯や炊事・掃除など日々行いハリのある生活ができるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出や地域の行事が中止になっている。近くの神社などには散歩に行っている。	コロナ禍のため、通常の外出支援(買い物・ドライブ・季節の外出・地域行事・遠足等)は休止しているが、近隣への散歩、時期や場所を考慮しての初詣や花見は再開している。また、屋上での洗濯物干し・玄関前のプランターでの花の水やりや鑑賞等、戸外で気分転換できる機会作りに努めている。	

グループホームたのしい家佐太中町

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様のお金は事務所にて保管しており必要に応じて嗜好品や日用品を一緒に行き購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に手紙を書かれたり、テレビ電話などでご家族様との関係を保てるように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアにはソファを設置し、くつろげられる空間をつくり、玄関には季節の花を置き、メダカを飼育し季節感を取入れるなどの工夫をしています。	共用空間は明るく、テーブル席・ソファを設置し、季節の装飾品や利用者と一緒に制作した季節の作品を飾り、くつろげる環境づくりを行っている。プランターで季節の花を育て、水槽でメダカを飼育する等、生活の中で自然や季節感が感じられるよう工夫している。キッチンから手作り調理の音や匂いを感じられ、利用者も調理・掃除・洗濯等の家事に参加し生活感を採り入れている。午前中は体操を日課とし、午後は職員がレクリエーションを企画し、共用空間で楽しく活動できるよう支援している。屋上や玄関前スペースも共用空間として活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファを設置し、テレビを見たり自席にて他の入居者様との雑談を楽しんだりしていただいています。		

グループホームたのしい家佐太中町

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具やご家族様の写真などを置かれ、居室で過ごしやすい工夫をしています。	各居室に、ベッド・クローゼット・緊急時用コールボタン等が設置されている。筆筒・テーブル・椅子・テレビ・家族の写真・仏壇等、使い慣れたものや馴染みものが持ち込まれ、居心地よく過ごせる環境づくりが行われている。塗り絵・書道など、自作の作品も飾られている。居室前にネームプレートや目印を設置し、部屋間違いや混乱がないように配慮している。居室担当職員が中心となり、衣替えや環境整備を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア・浴室・トイレには手すりを設置しており安全に生活ができるように工夫をしています。また、生活リハビリを行い炊事や洗濯など職員と共に行い自立した生活が送れるように支援しています		